

Interview

70年の歴史を誇る東京JCの過去の偉業を振り返り、
未来につなげていくための歴代理事長対談の第二弾。
今回は80年代、90年代を知るふたりの歴代理事長の話をお聞きして、
現在の東京JCが進むべき道を探ります。



「時代の先を行く
提言を」
第47代理事長
枝見 太郎 先輩



「本音の議論こそ
組織の原動力」
第34代理事長
小島 陽一郎 先輩

提言を世の中に 届かせる組織だ

—35年前に今社会を予測で
きていましたよね？

35周年の未来予測は「少子
高齢化」「経済の成熟（変化）」
「国際化」。そのときは、誰も
体験していなかつた高齢化社会モ
デルをスウェーデンに学びに行つた
り、政府の行政改革の応援活動
を行つたり、様々な活動をしてい
ましたよ。国鉄の民営化にも東
京JCは関わっていましたね。

大きな活動ですね

いろんな委員会で議論してや
るべきことが見えたら、どんどん
活動していた。東京JCは商
工会議所の青年部のような存在
になつていつたから、社会にインパ
クトを与える活動をしました。キッ
シンジャー元国務長官を講演
のために呼んだら、首相が会談
を申し込んできたり。新聞で取
り上げられることも意識して活
動していましたね。

—会員も多かつたですよね
私の時代の東京JCは、経済

界の次代の経営者が集まる団体

だつたから、人数が多いとそれ
だけ影響力はあつたことは確か。
「数は力」のは今と変わらな
い。だから、大事なのは世の中
に東京JCの主張が届くように、
社会を変えたいと思っている人が
どんどん仲間になることだと思
う。東京JCはそんな歴史があつ
て、より多くの人に知ってもらえ
る活動ができるんだからね。

社会に求められる 組織であるために

—今と昔の違いは？

当然ではあるけれど、社会情
勢、とくに「経済」の仕組みが
変化したことが大きい。昔は、
企業のオーナー子息が会社を繼
ぐ前に「社会を変える」という
意識を持って活動する場で、人
間として磨かれていった。でも、
今の企業は世襲制ではないから、
本業で社会を支えることができ
るようになつた人がメンバーにな
る、個々人のやりたいことをト

る。となると必然的に加入年齢
も昔に比べて高くなり、活動期
間も短い。であれば、その期間
に何をすべきか考え、主体的に
動くべきでしょう。

—主体的に動くためには？

自分がやりたいことを考え、
提案し、議論して、煮詰めるこ
とですね。昔は顔色を窺つたり
しないで「これをやりたい」「こ
こが変だ」と口に出したら、「面
白いやつだ」と目をかけられたり
しましたよ。組織として必要な
のは、個々人のやりたいことをト

コトソニ議論する場を用意するこ
とですね。

—東京JCで何ができる？

社会事業というと「～不足を
解消するため～を増やそう」
というのが多いけど、「～不足」
が起きない社会にするためには、
という一歩先を見据えた提言を
できるのが東京JCだと思う。
その意識がある人は是非入つ
て活動してもらいたいですね。

詳しくは
コチラ！



詳しくは
コチラ！

